

ところ会 4 月例会案内

さくら咲く中の哲学堂で花見の宴

今回の花見は中野近辺の街道沿いの花見と哲学堂公園の花見食事会を計画しました。

記

- 日 時：平成 29 年 3 月 30 日（木）
雨天の場合は翌週 4 月 7 日（金）とします。
- 集 合：8 時 55 分 西武新宿線 所沢駅行きホーム本川越より
- 見学場所及び時間：コース全長約 4.5km 交通費：600 円
所沢駅(9:00 急行新宿行乗車)⇒鷲ノ宮駅乗換⇒沼袋駅(9:50)⇒
沼袋氷川神社⇒明治寺百観音・休憩⇒山崎記念中野区立民俗資料館⇒
新青梅街道⇒江古田古戦場跡⇒蓮華寺⇒野方配水塔⇒
中野哲学堂公園⇒花見・食事会⇒中野通り⇒北野神社⇒
梅照院新井薬師⇒西武線新井薬師駅⇒所沢（解散）
- 昼食場所：中野哲学堂公園にて
※食事・飲み物は各自準備願います。ビニールシートの準備も忘れずに。
- 見学先簡単ガイド(各種ホームページから)

■沼袋氷川神社

沼袋氷川神社は、後村上天皇の時代の正平年間（1346～1370）に武蔵国の一の宮である大宮氷川神社から分霊され、祀られたことに由来します。祭神は須佐之男命。

後の文明 9 年（1477）に太田道灌が豊島氏との合戦（江古田・沼袋原の戦い）の際に、当神社に陣営を置いたと言われ、その際戦勝を祈願して境内に杉の木を植えたと言われています。これが「道灌杉」と呼ばれ、高さ 30m ほどの大木となり、長く親しまれてきましたが 1942 年に枯死し、現在では切り株のみが残っています。

社殿は何度か築造されてきましたが、1988 年に昭和天皇在位 60 年を記



念して作られた社殿が、1年数か月後の1990年に過激派によるゲリラにより焼失してしまい、現在の社殿は翌1991年に造営されたものです。

天皇皇后両陛下御成婚50年を記念して、中野沼袋氷川神社境内に中野七福神が祀られています。

幸せを呼ぶ三本願い松

「悪しきことはスギ去れ、願い叶うをマツ」と杉の木に願いを掛けて、不運・災難から逃れ松の木に幸福を願うと、必ず叶うと信じられて来ました。



■ 禅定院

瑠璃光山薬王寺禅定院には中野区内では一番大きい樹齢600年といわれるイチヨウの大木があります。また、春には色とりどりの見事な牡丹の花が見られます。

御府内八十八ヶ所霊場第48番札所、豊島八十八ヶ所霊場第48番札所となっています。

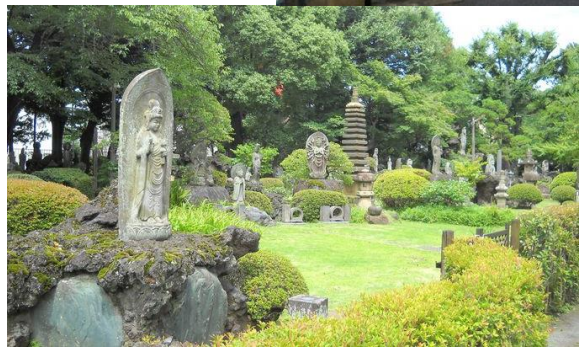


■ 百観音明治寺：（休憩場所）

明治寺は、真言宗東寺派の寺院です。山号は、「新浮陀落山」（しんぷだらくさん）、院号は「世尊院」。境内の一部は区に貸与され、百観音公園として開放されています。明治45年に明治天皇の病氣平癒を祈るため、榮照法尼によって観音菩薩石像が建立されたのが始まりです。しかし観音開眼を待たずして明治天皇が崩御されたため、明治天皇のご冥福と明治時代を振り返り、大正元年に観音開眼供養が行われました。その後当寺院に



一大観音霊場を築きたいと呼びかけたところ、政財界から庶民に至るまで多くの賛同者が現れ、大正5年までに百観音が整いました。百観音とは近畿一円に広がる西国三十三箇所と、関東地方の坂東三十三箇所、それに秩父三十四箇所の札所を合わせて百箇所の札所を総称したもので、それらの仏像の写しを当寺院の境内に祀ったものです。これら全てを拝み続けると百観音札所のすべてをお参りするに等しいご利益が授かることになると言われています。



添付資料の「百観音道しるべ」には番号を振った図があります。まず、本堂にお参りしてから順番に回りましょう。また、代表的な観音様のお姿もありますので、実際の観音様と見比べてみるのも良いでしょう。

大正6年には本堂が完成し、昭和11年には明治寺の号が許されました。観音像の建立はその後も続き現在では180体あまりの観音像が境内に建立されています。

■山崎記念中野区立歴史民俗資料館

郷土の文化遺産を保存・展示することを目的に、名誉都民であった山崎喜作氏から寄贈された土地に建設された歴史民俗資料館です。

常設展示室では、原始から現代の中野の風土や暮らしを、イメージや写真、映像などで再現しています。また、弥生時代の人々の生活や、旧家模型などがあり、まるで自分がタイムスリップし、当時の暮らしを肌で感じているような気分になります。

中野には、かつて綱吉が設けた犬の保護施設「お囲い御用屋敷」があり、お囲い御用屋敷の古地図や、当時用いられた道具などが展示されているコーナーがあります。展示ケースの上には、保護した犬を乗せて運んでいた籠が展示されています。また、綱吉が愛用していたと伝わる犬型の湯たんぽの複製があります。

元禄8年(1695)、現在の中野駅周辺の16万坪の土地に犬小屋が造られました。ここに、江戸市中の飼い犬も含め大方の犬(10万匹)が収容されました。そして、元禄15年には29万坪まで拡張されました。中野駅近くにはかつて「囲町」という地名も存在していました。

また、犬の村預けによる養育制度もあり、所沢にも1,000頭を越えるお犬様が預けられ、農繁期には養育のため農民が苦しめられました。犬を預けられた村落には「御犬養育金」が支給され、その金額は1ヶ月一匹当たり銀二匁五分(2,750円)。1年で金2分(33,000円)でした。ところが、綱吉の死で生類憐れみの令が廃止されると「御犬養育金」の返還を命じられ、以後この借金返済に30年もの年月がかかりました。

資料館の外には樹齢500年というシイの木があります。中野区指定文化財で、彰義



隊の敗残兵がこの木の下で休息したと伝えられています。

■新青梅街道・中野通りの桜（写真は今年の桜の様子です）

郷土資料館から先は道路両側に桜並木があります。



新青梅街道：郷土資料館～哲学堂



中野通り：哲学堂～新井薬師

■江古田古戦場跡

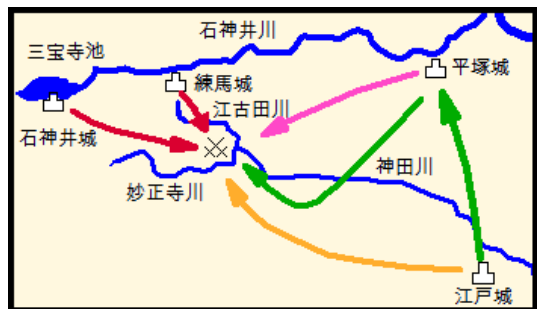
哲学堂公園から野方6丁目に至る新青梅街道沿い一帯で、享徳の乱（1454～1482）の最中の文明9年（1477）、太田道灌、豊嶋泰経らが激しい合戦を繰り広げました。この合戦がおきたことを示す碑が、江古田公園に建っています。



享徳の乱は、古くからの豪族に支持された関東公方足利成氏と、太田氏が仕える関東管領上杉氏とが対立する中、結城・武田氏により管領上杉憲忠が殺害されたことがもとで起きました。この乱で関東は二分されました。そのとき江戸城を根拠地とした道灌は、武蔵国の領主たちを支配下にまとめて戦を有利に進める重要な役割を果たします。ここでの合戦は武蔵野を開発してきた豊嶋氏に代わり、太田氏が武蔵野支配を確立する上で大きな意味を持っていました。

上杉氏に謀反を起こした長尾氏に呼応した武将の一人が、武蔵の名族・豊島氏。その当主だった豊島泰経率いる豊島軍と、扇谷上杉氏の重臣・太田道灌がこの地で争ったとされます。

文明8年(1476)関東管領山内上杉顕定は家宰長尾景信が亡くなると、景信の弟忠景を跡に据えた。これに不満を持った嫡男長尾景春が鉢形城に籠もる



江古田・沼袋原の戦い
(1477年)

太田道灌 ← 豊島泰経
上杉朝昌 ← 豊島泰明

と、石神井城主豊島泰経と弟である平塚城主泰明はこれに呼応した。

翌9年4月13日、扇谷上杉氏家宰太田道灌は、泰明が籠もる平塚城を攻め、14日泰経は救援に向かった。泰明も城を出撃し、道灌は一度兵を引き友軍と合流し、江古田・沼袋で合戦が行われた。

激戦の中、豊島勢は敗れて泰明は討死し、泰経は石神井城へ敗走する。道灌は石神井城へ迫り、18日城を取り壊す条件で和議を求めるが、泰経はこれに応じなかった為、28日道灌は攻撃を開始した。泰経は夜陰敗走し、平塚城に籠もったが、翌文明10年道灌はこれも落とし、泰経は小机城（横浜市港北区）へ敗走した。道灌は2月6日から約2ヶ月小机城を攻め攻略し、豊島氏は滅亡した。

■蓮華寺（中野区江古田）

日蓮宗の蓮華寺は、星光山と号します。創建年代は不詳ですが、南北朝時代に日山上人が橘樹郡星川村（横浜市保土ヶ谷区星川）に開山したと伝えられ、その後、日匡上人（寛保元年1741寂）が当地へ移転し、当寺を中興したといわれています。

境内には**哲学堂**を創った井上円了の墓所があります（井桁の上に円形の石を置いた墓石です）哲学堂公園の中野通り向かい、目白通り沿いにある大きな寺院です



新編武蔵風土記稿による蓮華寺の縁起

年貢地、境内3畝。東の方豊島郡葛が谷村境にあり。日光山と号す。日蓮宗にて池上本門寺末なり。当寺もと橘樹郡星川村にありを、70年ほど以前此地へ移せりと。開山を日山と云。示寂の年月詳ならざれど、第11世日道は貞享2年7月12日寂すといへば古き寺なるべし。中興を日匡と号す、寛保元年12月某に示寂す。開山より第19世にあたり。過去帳を閲るにその裏に当寺開基日山檀越大籠院起立願主深野氏とあり。また客殿の願主浄心俗称義右衛門と見えたり。思ふに浄心信仰のあまり堂宇建立の願を立しが、かく檀家も乏しくは後破壊に及ばんとき、繕治のことおぼつかなきことにおもひ此地へ引移、堂宇を建立せしかば、村の旧家深野伊右衛門若干の地を寄附せしなるべし。此伊右衛門は当村名主孫右衛門が本家なり。又入間郡川越町朝田山行傳寺は永和年中の草創にして、開山日山は池上本門寺第四世の僧と云。則当寺開山と同人なるか、深見氏のこと後の旧家の條に出せり。合せみるべし。客殿は3間に3間半南向きにて8寸なるを安せり。

■野方配水塔

野方配水塔(英称 Nogata standpipe)は、荒玉水道の野方給水所に作られた配水塔です。

野方配水塔は、1929年3月末に竣工し、配水塔としては1966年に使用を停止し、現在は中野区の**災害用給水槽**となっています。

野方配水塔の設計者は、「近代上水道の父」と呼ばれた工学博士・中島鋭治であるとする説がこれまで広く流布されてきたが、工学士中島洋吉が有力です。

地元では江古田川・妙正寺川に向かって高台にあり後述の大谷口配水塔同様良く目立つ。「水道タンク」あるいは「みずのとう」と呼ばれます。

塔に空襲時の**弾丸の痕跡**が残っていることから**中野区の平和史跡**となっており、周囲は中野区立みずのとう公園・みずのとう幼稚園として整備されています。

新青梅街道をはさんで南側に哲学堂公園があり、ペットの墓所も備えた蓮華寺が中野通り・新青梅街道の交差点にある。このため一帯は交通量が多いが閑静です。同じ荒玉水道の配水塔として板橋区に大谷口配水塔がありましたが、東京都水道局の大谷口給水所築造工事のため2005年6月に取り壊されました。



■中野哲学堂公園 昼食・花見

哲学堂公園は、東京都中野区にある中野区立の公園です。公園の南東部(面積の7%程度)は新宿区にあります。桜の咲いている場所があちこちにありますので、ここでお花見をしましょう。



東洋大学の創設者である哲学者の井上円了が、ソクラテス、カント、孔子、釈迦を祀った「**四聖堂**」を建設したのが、この公園のはじまりです。この四聖堂を当初哲学堂と称し、



四聖堂

それがそのまま公園の名になりました。当初は当地

に大学を造成する案もあったが、精神修養のための公園にすることになり、1909～1912年の間に**哲理門**、**六賢台**、**三学亭**などの建築物が逐次整備されました。当時の建築物は現在も公園内に現存しており、普段は外観しか見られないものの、毎年4月と10月に限り建築物の内部も一般に公開されます。内部には、哲学者の像が祀られています。この他にも園内には77場の哲学に由来するユニークな名前の建物や石造物、通路などが点在しています。哲学の思想と世界観を垣間見ながら、のんびり散策を楽しむことができます。



六賢台



■北野神社

新井一円の総鎮守である北野神社は新井天神と称し、文武両道の神とされる菅原道真公、また食物を司る保食神の二柱をお祀りしております。当神社の創建年代は明らかではありませんが古くは天満宮と称し、天正年間(1573～1592)、新井薬師の開祖である沙門行春が建立したとも、それ以前よりこの地の鎮守社であったとも言われています。境内には「**新井**」という地名の由来ともなった**井戸**が現在も使用されています。



牛は天神様のお使いです。自分の悪いところを撫でると良くなると言われています。



撫で牛

■梅照院新井薬師

「新井山梅照院薬王寺」は真言宗豊山派の寺院で一般には、**新井薬師**として知られている中野区最大の寺院です。

新井薬師は、二代目将軍・秀忠公の五女で後水尾天皇中宮の和子（東福門院）が患った重い眼病の快方を祈願したところたちまち回復に向かったとされることから、それ以来「**目のお薬師さま**」として知られています。その他、子育てにもご利益があるとされます。

毎月8・18・28日に開催される「八の市」と呼ばれる縁日では、地元商店街から骨董品や花、食品などさまざまなお店が出店されており、地元の参拝客でにぎわいを見せています。

なお、新井の名は当地で新たに井戸を掘ったことに由来するもので、足立区にある西新井大師と同じ真言宗豊山派の寺院。高尾山薬王院、日向薬師（伊勢原市）、峰の薬師（相模原市）とともに**武相四大薬師**に数えられます。

そして、こちらにある井戸は「**白龍権現水**」と呼ばれ、**飲用水として一般に開放されています**。日中は近所の参拝客が大きなペットボトルを何本もかかえて水を汲みにくる姿が多く見られます。

天正4年（1586）僧・行春により創建されました。本尊は空海作の伝承を有する薬師如来と如意輪観音像です。本尊は表を薬師如来、裏を如意輪観音とする二仏一体の像であるとされ、秘仏ですが、12年に一度、寅年のみに開帳されます。

現在も、広大な境内に本堂、不動堂があるほか、境内の一部が公園になっています。また、南北朝時代にこの地域に本拠地を構え、南朝方（新田義貞）についての窪寺氏の葬地にもなっています。



以上